

# まち活 つうしん

ねりままちづくりセンター

取材 / 2009年11月6・20・29日

—「練馬の自然資産は台地と川」だ  
というなじみ研究会。『石神井川をも  
う一度自然な形の豊かな川で、人々  
のなじみの場とするには?』をみんな  
が考えるきっかけづくりに取り組  
んでいます。

そんなまちづくりを「300年後に実  
現しませんか」と提案する同研究会  
が、一般参加者を募って開催した連  
続ワークショップ「石神井川の今と  
昔を比べてみよう!」の様子を紹介  
します。

## 昔には、これからのヒントが隠れてる

### 明治の地図をたどる

1909 (明治42) 年の地図でみる練馬区  
は、まさに農村そのもの。元々の地形  
もよくわかります。集落は台地の上。  
石神井川沿いには帯状に田んぼが広が  
ります。川の流れも、蛇行や小さな支  
流が多く、今とはちょっと様子が違っ  
ていたようです。「あの辺り、確かに

上り坂になっているなあ」「この通り  
は、もうこの時代からあるね」「この  
分れ道のところ、今も庚申様がある  
よ」など、地図を囲んで話すうちに、  
石神井川沿いの原風景が徐々にアタ  
マの中に浮かんできます。

### 昔ガキ大将に話を聞く

この日は、春日町生まれの立松さん、





▲昭和30年頃の石神井川（石川橋付近）

石黒さんに、子ども時代を送った昭和20～30年代頃の石神井川をめぐるお話を、スライドを見ながら聞きます。「子どもはみんな川で泳いで遊んだよ。遊び場として最高だった。」  
「溺れる子はいなかったなあ。仲間で遊んだし、泳ぎはみな達人だった。」  
「ナマズの子どもが獲れるんだよ。こ

れがかわいいんだよー。」

石神井川は、やはりガキ大将たちの一番のお気に入りの遊び場だったようです。スライドを見ながら元ガキ大将のお話を聞いているうちに、都市化が進む前の練馬の風景や、人々と川とのつながりの様子がイメージされてきます。それは、僅か50年前のこと！そし



て、話は高度成長期へ。広々と田んぼが広がる川沿いの低地にも、家が建ち始めます。水に浸かったり崩れたりしやすい「川のそばの良くない田んぼからね…」

### 歩いてみると…

最終回は、春日町・向山界隈の石神井川周辺をまち歩き。平田英二さん（水路たんけんクラブ主宰、練馬区文化財めぐりボランティア）を案内人に、すっかり市街化した街並みの中の昔——旧道、水路の跡、遺跡、昔と同じ名前の橋を確かめつつ



## 団体さん、今日を振り返る。

活動メンバー要さんのお話

ドキドキしながらの、人生初めてのワークショップ。会場に貼った昔の石神井川の写真を見て皆さん懐かしそう。大きく投影すると小さな写真ではわからないところも見えてくる。「田んぼで働いている人がいる」「あの田んぼは子どもの頃よく野球をやったんだ」記憶を辿りながら様々な話が飛び出す。昔を知らない方も今はまったく違う景色に興味津々。まずは参加してくださった方に喜んでいただけてひと安心。石川橋で写真を撮っていたら「このどこに撮るとこがあるの？」と話しかけられた。住んでいる人が価値を見いだせない風景はちょっと寂しい。



平田英二さんのお話を聞きながらタイムトリップ

## 昔を知る・将来を考える

昔とはかけ離れていると思えた現在のまちは、しかし確かに昔とつながっていました。300年後の川やまちも、現在の上に築かれるのでしょうか。今を生きることに忙しい私たちですが、長い長い時の流れの中で、そもそもここはどんな場所だったのか、人々はその環境とどう折り合って暮らしてきたのかを知ることは、ちょっと先の、まちの将来を考えるヒントになりそうです。



▶石神井川の小さな支流には、雨天時だけ流れる「枯れ川」もあった。

歩きます。

平田さんのお話を聞き、地図で地形を確かめながら歩いていると、「あ、確かにここは小さな川だったっぽい雰囲気！」とハナが利いてきます。少々予備知識と、古い地図や地形の特徴などをたよりに、現代の街並みに覆われた元々の風景、その場所の特徴をイメージすることができます。小さな支流跡の谷筋・谷戸を遡って行き止まりの階段を上がると、そこは喧騒の目白通り。時間旅行の終点です。

## 活動団体基本データ

### 設立

2006年10月

### 活動テーマ

練馬の自然資産は台地と石神井川、白子川、田柄川しかありません。もう一度、自然な形の豊かな川で人々のなじみの場となることを願って、人と環境に即した地域社会の新たなあり方を再構築する方法を探ります。

### 活動実績

- ・たまご部門で「練馬のまちの思い出」調査実(2007)
- ・はばたき部門に「練馬都森化計画」提案も不採択、独自に活動(2008)

### 団体連絡先

kaname\_93@ybb.ne.jp  
03-3992-9330 (代表:かなめ)

## 団体拠点案内

### 活動場所

石神井川流域



# 練馬まちづくりセンター

発行日 2010年3月8日

取材/編集 練馬まちづくりリセンター

デザイン 濱祐斗 山口真生

発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター

練馬区豊玉北5-29-8 練馬センタービル3階

Tel 03-3993-5451 Fax 03-3993-8070

Email machi@nerimachi.jp Web http://nerimachi.jp

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実施する組織です。

## これからの展望

### 川本来の姿を

### イメージし共有する

石神井川と河岸段丘の内側を、300年かけて本来の姿に近い場所にしようという「練馬都森化300年計画」。でも現在のまちを見ると、「無理」と思ってしまう人が多いかも。提案の発信も大事ですが、受信して響く感度のある人を増やすことも重要。川と流域の本来の姿のイメージを共有する機会づくりから、徐々に共感が広がるかもしれません。

### 今後こんなグループとつながりたい!

Nerima景観まちづくり会議/東京建築士会  
練馬支部/木の香る住まいづくり部会

## 活動メンバー紹介

### 要 久美子 さん

春日町生れのグラフィックデザイナー。身近に都会と田舎が同居してほしい要さんのもう一つの関心事は、国民全員に基礎所得を保障するベーシックインカム。



### 岡崎 章臣 さん

田柄で事務所を営む建築家。関心事は、煙の中に「煙の有るネオ下宿」を創りたい(来年でも!)、石神井川に「タユタウ劇場」を浮かべたい。(百年後!?)



他にもたくさんの方がいらっっしゃいます!  
是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンターは「まちづくり活動助成事業」で、なじみ研究会を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内 2年目50万円以内

身近な場所で生き物や空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内(年中受付しています)

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成